

林 重雄¹・脇 聡子²：福岡県沿岸へのアオイガイの大量漂着

Shigeo HAYASHI¹ and Satoko WAKI² : Mass stranding of the *Argonauta argo*, on the beach of Fukuoka Prefecture, Japan

アオイガイ *Argonauta argo* Linnaeus は、世界の温帯・熱帯海域に浮遊生活するカイダコ科のタコである。メスは石灰質の薄い殻をつくり、その中に卵を産み、孵化するまで育てる（石井 1999）。アオイガイは美しく目立ち、日本海側へ大量漂着することが知られており（Nishimura 1968）、1982年に福岡県、島根県、2012年北海道などから報告されている（石井 1999；Suzuki and Enya 2013）。今回、2013年春季に福岡県であったアオイガイ大量漂着によって得られたサンプルの解析を行ったのでここに報告する。

漂着記録 本報告の調査対象地域は、福岡県糸島市志摩野北から志摩芥屋にかけての一带と、遠賀郡岡垣町三里松原一带の海岸線である。この二つの地域は筆者の一人、脇が調査を継続している地域である（図1）。

アオイガイ漂着は、2013年4月4日に糸島市で初めて確認され、岡垣町では4月16日から漂着を確認した。

福岡県糸島市と岡垣町で2013年4月から5月の間に漂着した417個のアオイガイのうち、殻長と殻高の計測ができた個体数は254個体であった（図2）。これらの漂着は、低潮線が多く、一部は汀線に並行する漂着物帯の中にも見られた。計測に当たっては Okutani and Kawaguchi（1983）に従い、殻長と殻高を求めた。アオイガイの殻長は、最小値で20mm、最大値では180mm、平均は107.4mmであった。殻高は、最小値で13mm、最大値では119mm、平均は69.5mmであった（図3）。

大量漂着が4月初旬に始まったので、その後の漂着期間を分かりやすく示すために一か月をおよそ10日ごとの上旬、中旬、下旬の三つの旬間に分けて漂着数を確認した。この旬間の比較に基づくと、4月下旬に178個体を示すピークがあり、5月上旬に64個体と減少し、5月中旬には7個体と激減した（図4）。4月から5月にかけての地域別の漂着数では、糸島市が285個体、岡垣町三里松原海岸が132個体となった。

考察 筆者の一人、脇は2010年以降、福岡県下の海岸で漂着物調査を続け、これまでもアオイガイ漂着を確認したことはあったが（脇聡子ブログ）、これほど大量なアオイガイ漂着には出会っていない。今回の漂着で計測されたアオイガイの殻長は、120mm台の出現頻度が最も多く44個体を示し、また30mm台でも11個体とやや高い出現頻度を示した複数峰型の組成となった（図3）。これは産卵時期の異なる個体群が混在することによって生じたと思われる。

旬間ごとの漂着数と海面水温の変化（海上保安本部 海洋情報部ホームページ）を見ると、海面水温が13～14℃だった4月上旬から中旬にかけ、対馬暖流に乗ってきたカイダコ個体群が衰弱し4月下旬に大量漂着となった。その後カイダコの生息が可能と

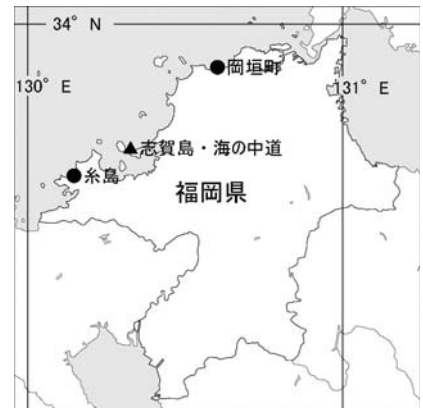


図1 福岡県でのアオイガイ調査地点

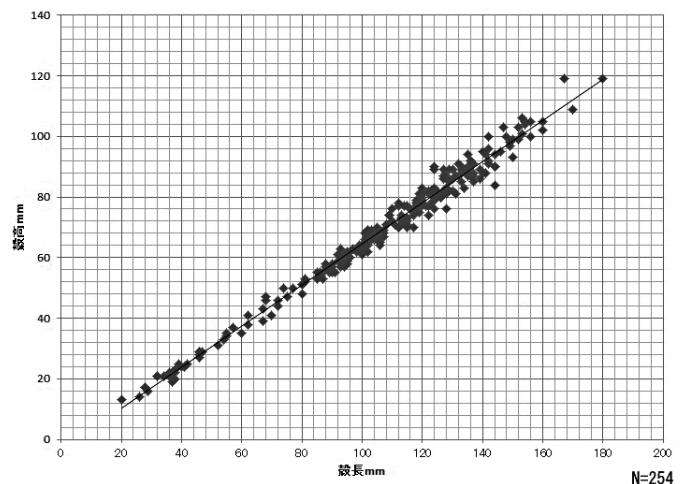


図2 漂着したアオイガイの殻長・殻高比

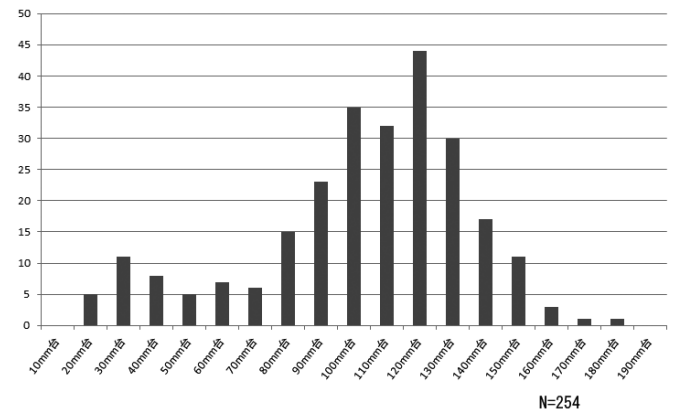


図3 殻長サイズごとの漂着個体数

推定できる15~16°C (圓谷・鈴木 2015) を超えた海面水温上昇に伴い漂着は終息したものと考えられる (図4)。

漂着数のピークを迎えた4月下旬、4月21日の海面水温は15°Cを示し (海上保安本部 海洋情報部ホームページ), カイダコの生息最適水温下限である13~14°C (志賀 2007; 圓谷・鈴木 2015) よりもかなり高い水温であった。こうしたことから、今回のアオイガイ大量漂着は、これまでに知られている北海道への漂着個体群よりも、海面水温が高い低緯度海域起源の個体群である可能性が考えられる。

また今回の大量漂着は広範囲に及ぶもので、筆者の調査地以外の福岡市志賀島から海の中道にかけての一带で、2013年4月7日から5月15日にかけての期間で1500個以上もの漂着が確認されている (ビーチコーミング時々フィッシングブログ)。このような漂着情報を考慮すると、福岡県における2013年4月から5月にかけてのアオイガイ大量漂着は、数千の単位に及ぶ可能性が示唆される。

謝辞：本稿をまとめるにあたり、北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただき、貴重な助言を頂いた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- ビーチコーミング時々フィッシングブログ. (<http://ameblo.jp/crazy-bigfish-hunter/archive1-201305.html>) (2016年2月10日閲覧)
- 海上保安本部 海洋情報部ホームページ. (<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/2013/backno13.html>) (2016年2月10日閲覧)
- 圓谷昂史・鈴木明彦. 2010. 2010~2014年において北海道余市湾沿岸に漂着したアオイガイ. 北海道開拓記念館研究紀要 (43): 27-36.
- 石井 忠 1999. 新編漂着物事典, 380pp. 海鳥社, 福岡.
- Nishimura, S. 1968. Glimpse of the biology of *Argonauta argo* (Cephalopods: Octopoda) in the Japanese waters. Publication of the Seto Marine Biological Laboratory, 16: 61-70.
- Okutani, T. and Kawaguchi, T. 1983. A mass occurrence of *Argonauta argo* (Cephalopods: Octopoda) along the coast of Shimane Prefecture, western Japan Sea. Venus (Japanese Journal of Malacology), 41: 281-190.
- 志賀健司 2007. 北海道石狩湾岸におけるアオイガイの大量漂着. 漂着物学会誌 5: 39-44.
- Suzuki, A. and Enya, T. 2013. Mass strandings of the common paper nautilus *Argonauta argo* along the coast of Yoichi Bay, Hokkaido, in the autumn of 2012. Journal of Japan Driftological Society 11: 1-7.
- 脇聡子ブログ. 海辺の宝箱 (<http://umibe.blog.bbq.jp/blog/cat8627139/>) (2016年2月10日閲覧)

(Received Feb. 18, 2016; accepted Apr. 18, 2016)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan

² 〒815-0833 福岡県福岡市南区大橋3-22-3-401

² 3-22-3-401 Ohashi, Minimi-ku, Fukuoka City, Fukuoka 815-0033 Japan